

高校間連携で

学校力を高める

学校の小規模化などによって、以前よりも生徒同士が切磋琢磨し成長する機会が減り、教師が同僚から指導力向上のヒントを得にくくなっている。

これまで一つの解決策として、本誌では「高校間連携」の事例を紹介してきた。

今号では、学校の課題を解決し、活性化するための手段としての高校間連携の可能性と、連携を進める上でのポイントを考えていきたい。

高校間連携の 必要性を感じている 先生方の声

● 地方ではトップ校以外は進路指導の方法についての情報が不足がちだ。教師が他校から情報と刺激を受けて常に新しい視点で指導に当たることが大切だ。 静岡県

● 全国で学校の枠を超えて、教師という「資源」を共有資源として活用していく発想は、地域を育てる視点だと思っている。 長崎県

● 最近あちこちで他校とのネットワークづくりの動きが出ている。特に公立高校では、学校単位だけでなく、ネットワークの中から知恵を出し合い、高まっていく必要がある。 埼玉県

● 中学生の人数が減少している地方郡部では、生徒を取り合うのではなく、協力して地域の生徒を育てる姿勢が必要だと思う。 千葉県

VIEW21 高校版読者モニターアンケート結果より

対談

1 なぜ今、高校間連携が必要なのか？

広島県立安古市高校教頭 やすふるいち
小路口真理美 しょうじくち × 鹿児島県立川内高校教頭 せんだい
藤崎恭一

[P.6]

社会的背景

- 地方で人口が減少
 - 特に郡部の学校の小規模化
 - 教師の年齢構成のいびつ化
- など

教育現場の抱える課題

「学校力」の低下
生徒
教師

- 切磋琢磨する機会の減少により、学力や志望が高まりにくい
- 同質な仲間との交流が中心となり、価値観が広がらない
- 多様な体験の不足から進路観が育ちにくい
- 指導継承の場が減少し、指導力を高めにくい
- 同僚との交流の場の減少により、教師が孤立化する
- 多忙さを背景とした慣例化による取り組みのマンネリ化

高校間連携で学校力を高める

現状の課題解決

- 学校を超えた交流で、生徒・教師が刺激し合い、切磋琢磨できる
 - 情報交換会を行うことで、他校の教師からも指導方法を学び、情報を得られる
 - 自校だけでなく他校のベテランからも学べ、若手教師の指導力向上につながる
- など

未来に向けて

- 「共助共生時代」に必要とされるリーダーを、様々な学校と連携しながら育てられる
 - 教師自身が多様な意見に触れて教育力を高めることで、新しい価値観を創造できる生徒を育てることが出来る
- など

「事例」を通して考える

2 高校間連携の成功に必要な要件とは？

高校間連携に対する代表的な不安や疑問

進路目標や授業進度が異なる学校同士が連携してもかみ合わないのでは？

連携の在り方を他校との関係の中で考えた実践例

福井県・嶺南地域の高校間連携

各学校が自校の強みを生かし、「学校の違い」を活力源とする連携を目指す

[P.10]

本音での話し合いにならず、自校の課題解決にはつながらないのでは？

連携の成果を自校の中で生かした実践例

広島県トップリーダーハイスクール支援事業

自校の課題意識を明確化し、他校から得た情報やノウハウを精選し、自校に還元する

[P.13]

※学校力とは、経営力、SI、指導力、学力、安全・危機管理と定義した（2006年4月～9月号参照）